

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700426	
法人名	医療法人社団真友会	
事業所名	グループホーム「けやき」	
所在地	宮城県黒川郡大和町吉田字新要害10番地	
自己評価作成日	う	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	令和 5年	1月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の水際対策にて、ご家族のご面会を制限させていただいたり、行政の通知に沿って運営推進会議の開催を中止したり、昨年同様に普段行っていた活動が水際対策優先にて配慮させていただいている現状となっております。ご入居者の皆さんには、周辺の感染流行に配慮し感染対策を行いながら、近隣へのドライブや買い物を実施したり、抗原検査を実施していただいたうえでご家族と対面での面会を行ったり、ZoomやLINEを使用頂いたテレビ電話での面会を行っています。屋内中心の生活となっておりますが、ご本人の想いに寄り添い、ご本人の「やりたいこと」「できること」を継続して行えるよう職員一丸となって取り組んでいます。医療面においては、併設している診療所・介護老人保健施設との連携を図ることで、必要な医療が受けやすい環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「けやき」は、大和町役場の南西方向1.0Km程に位置し、近くを吉田川が流れ、田畑に囲まれた静かな場所にある。敷地内に同法人の運営する診療所や老健、地域包括支援センターがある。職員は理事長の「認知症講話」や全体会議で、本人の体験話を聞くなど認知症についての理解を深めてケアに活かし「家族に会いたい」「〇〇食べたい」などの入居者の思いに寄り添うケアに努めている。管理者は「職員はコロナ禍において各自が責任を持ち一致団結して感染予防に取り組んだことで意識の向上に繋がりと、やりがいと責任を持って働けている」と話している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「けやき」)「ユニット名

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で意見を出し合い、取りまとめた形で事業所の理念・運営方針を作成したものと、法人の理念をそれぞれ印刷し、玄関や食堂に掲示して、周知を図ると共に、折りに触れて話し合いを行っている。	今年度のけやきの目標「ともに一ご入居者・ご家族の想いを叶えられるよう～」は管理者変更を機に今までの経緯を全職員で振り返り、法人理念等を基に作成した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の時期以外は、感染対策を行い地域のスーパーへ買い物や外出を行っている。運営推進会議についても感染状況に応じて開催を見送ることもあるが、開催している。	区長と交流があり地域の情報を得たり、散歩時には「元気ですか」などと挨拶を交わしている。ボランティアのハンドベル演奏を老健入居者と共に聞いた。近所の畑仕事ができなくなった方から畑を借入れ耕すこととした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染の水際対策にて外部との交流を制限させていただいており、今年度も取り組みは行っていないが、新型コロナウイルス感染症が収束した際には再開したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、運営推進会議は行政の通知に沿って開催を中止させていただいていたが、4月の感染者減少時には対面にて開催している。	メンバーは町職員や人権擁護委員、区長、民生委員、家族などである。メンバーは火災訓練を見学し「通報時電話番号や住所など電話の所にあった方が良い」と助言した。敷地内の地域包括との連携を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や介護保険の申請の際などは、書類を郵送せずに福祉課へ出向き、顔の見える関係性の構築に努めている。	町職員には、転居した入居者の燃料高騰補助金の申請を相談したり、入居情報を交換している。ワクチンの集団接種案内があった。権利擁護や消費者被害、虐待防止の研修案内があるがコロナ禍で参加していない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことによって生じる様々な弊害を理解し、拘束をしないための代替案を考え実践している。玄関の鍵は日中は施錠せず、夜間のみ防犯の観点から施錠している。	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、職員に回覧している。「ご飯ですよ」「戻りましょう」とホールに戻るのスピーチロックではないかや、ベッド脇に椅子を置くのは身体拘束ではないかなど具体的な内容を分析し、原因を話し合い、対策を考えている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の研修を受け、職員にどのようなことが虐待にあたるかや虐待防止に対する考えを伝えている。また、事業所にて「不適切ケア」について研修を行い、日頃の関わりに活かしている。	虐待防止と身体拘束防止の研修を行い、認知症の不理解が虐待に繋がることから、認知症ケア研修を行っている。管理者は職員の顔色や表情、本人の申し入れで休暇の体制を整えたり介助のサポートをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、法人内の研修に参加した職員が伝達講習を行い周知している。日常生活においてはご本人の意思を尊重し、できる限りご本人に決めていただくよう権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り、詳細についてご理解しやすいように説明することを心掛けている。ご本人やご家族の入居前の不安を取り除けるよう説明し、納得の上で入居いただけるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者の想いに寄り添えるよう関わりを深め、意思の表現ができる機会を多く持てるように配慮している。ご家族については状態の変化を逐一報告し、コロナ禍の現在は電話にてご意向の確認を行っている。	介護計画書の説明時に意見を聞いている。部屋の掃除や床屋に行ったかなど問い合わせがある。入居者の体調不良時に毎日観察の連絡が欲しいにこえた。入居に不安な方は事前に見学する事で不安が解消した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員との面談や、日頃の課題に対して職員同士で話し合う場を設け、職員全員の意見を伺い、運営に反映できるよう努めている。その他、法人全体では、仕事と職場のアンケートを年2回実施し、意見を反映している。	職員は、希望の資格取得に積極的に取り組んでいる。職員の事情に合わせたシフトを組んでいる。職員から腰痛予防対策としてリフトを取り入れる希望があった。意見により洗濯機を買替え、ヒーターを追加購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内には年間MVPという取り組みがあり、表彰するなど働きが形として認められやすい環境となっている。また、労働条件の変更時には、都度丁寧に説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の育成プロジェクトに添って実践しているほかに、年2回の目標管理(面談と評価)を行い、共に育みを行える環境となっている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との合同研修(Zoomを使用したテレビ電話での研修)を行っている。また、他法人のグループホームの管理者との情報交換を電話で行っている。	法人内全体会議で地域包括職員から事例を通して介護保険制度を学んだ。管理者は他事業所管理者と待機者や業務改善の情報を交換したり、応援職員派遣制度で他法人のコロナ感染での人手不足に応じた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には安心してサービスをご利用できるように、話し合いの時間に重点をおいている。また、入居後は環境の変化など重要な時期と考えており、関わりを多く持ち信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後の相互理解に繋げるため、重要な時期であると考えている。特に入居後は生活の様子を電話で伝えるなど、密に情報の共有を図り、できる限り不安が解消されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み相談時には、それぞれの意向の確認を行い、必要とされるサービスについて十分検討を行っている。今年度は他法人の入居施設をご案内させて頂いたご相談者もおられた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人の得意なことや苦手なことを見極めながら、必要以上に介入しないように努め、これまでの生活が継続できるよう環境を整えた上で、職員も一緒に行くことを大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月けやき新聞を発行し、日々の様子をお知らせしている。新型コロナウイルス感染者拡大時には創刊号を作成し、おひとりおひとりの日々の様子をお伝えしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の現在、感染流行時期をみながら、馴染みの床屋を利用したり、ご友人との面会を継続できるよう支援を行っている。感染拡大時は関係が途切れないよう電話で近況報告などが主となっている。	家族や友人など来訪者は抗原検査後に面会をしている。化粧品の補充は職員が買いに行く。職員は新入居者にテレビのチャンネル変更や新聞を読むタイミングなど説明し、早くホームに馴染めるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係性を尊重しながらも、必要時は職員が間に入るなどし、良好な関係性が築けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したとしても「縁」は続くものと考えている。お看取りをさせていただいた方に関しても、メモリアルコーナーを設置し、その方への想いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の過ごしたい時間を大切にしたいと考え、日課は設けず、ご本人の生活ペースを大切にしている。言葉で表現できない方については、ご家族からの情報や日々の関わりの中から見出すように努めている。	入居者は家族や職員と「人生会議」に取り組み、最後をどのように過ごすかなどを話し合っている。コロナ蔓延時に家族と会いたい希望の方に窓越しで面会した。朝食を摂らない習慣の方は朝食は水分のみとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らしについては、ご家族にバックグランド用紙へご記入いただいている。また、日々の関わりの中から知ることを大切にし、内容についても職員同士で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の重要性を理解し、些細な変化にも気付けるよう関わりを大切にしている。日常の中で気づいたことは、申し送りノートを活用し職員間の情報共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意思を尊重しながら、ご家族の意向を伺い、様々な視点から課題に沿った対応ができるよう体制を整えている。年2回ご家族とカンファレンスを行い、意向の確認と同意を得ている。	計画作成担当者は本人と関係者などからアセスメントして立案し、実施後職員とモニタリングをしている。運動等をしたい希望に散歩や体操を、体調に不安なく過ごしたいに看護師と連携し身体観察を盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の言葉や表現など、そのまま記録することで、ありのままの生活が分かるように努めている。また、情報の共有を行い介護計画に繋がるように配慮し、状態の変化時には見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化が見られる際は、併設の診療所と介護老人保健施設の看護師の協力をいただき、可能な限り医療的処置が行える条件下である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人は、大和町にてこれまでと変わらない生活を送れるよう、地域資源の情報収集に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所の医師がかかりつけ医となっており、連携が図りやすい環境である。身体状態による必要時には専門医を受診することで適切な医療を受けられる様になっている。	入居者は「かかりつけ医は往診し、しっかり話を聞いてくれる」と信頼を寄せている。専門医受診の際は、かかりつけ医から紹介状を貰い、専門医からかかりつけ医に結果が返送されホームにフィードバックされる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所と介護老人保健施設の看護師と連携を図っている。介護職員は状態の変化を都度報告し、医学的は視点での助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期は2名の方が入院され、病状の変化や身体的な変化について医療機関の医師や看護師より随時報告をいただき、ご家族と治療の方針や退院後について話し合い、医療機関との連携に努めた。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針についても説明し、了承を得ている。実際に終末期を迎えられる際には、改めて関わり方について話し合いの場を設け、最後までその方らしく過ごしていただけるよう配慮している。	「看取りに関する指針」に看取りについての基本理念や具体的な支援内容等が記されている。今年、2名を看取った。家族は抗原検査を行い毎日面会した。職員は看取りまでの流れや思いの聞き取りの手順、先輩の経験談を通しての研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の介護老人保健施設と合同にて、定期的に研修会を行っている。コロナ禍の現在はeラーニングを利用し、動画を通じて急変時対応の研修を実施するなど工夫して取り組みを行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。非常食や備蓄品の準備を行い、災害時に備えている。火災発生時には併設している介護老人保健施設職員が駆けつける体制となっている。	「けやき」を出火元とする火災や老健と合同で夜間想定火災や風水害、地震の訓練を行っている(コロナ禍の為机上訓練含む)。吉田川が危険水位に達し、老健2階に避難した。備蓄品は年2回点検し、補充している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重すべき目上の方であるという認識のもと、生活歴や性格を配慮し、おひとりおひとりへの対応を行うよう心掛けている。排泄・入浴の際は、さりげなくお声がけすることでプライバシーに配慮している。	尊厳とプライバシー、個人情報保護の研修をしている。職員は入室時にノックして了解を得ている。他の入居者が部屋に入るのを嫌がる方や周囲に聞こえないようにトイレと言う方の想いを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思表示しやすい環境を作れるように配慮している。言葉にして表現できない方に対しては、表情などから意向をくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の過ごしたい時間を大切にしたいと考え、日課は設けずに、ご本人の生活ペースを保つよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の交換時は、ご本人と一緒に衣服を選ぶようにし、その人らしい身だしなみができるよう配慮している。また、一緒に衣服を買いに行ったり、馴染みの床屋に出向くなど支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を作成したり、好みを伺うようにしている。準備時は食材を切ったり味付けをしていただくなど、ご本人の能力に応じて参加しやすい環境となるよう配慮し、食事そのものを楽しむ支援をしている。	好き嫌いや量、ミキサー食など、その方に合わせている。栄養補助食品は医師の指示や栄養士に相談している。栄養士から献立のバランスや彩、分量不足などの指摘があった。焼き芋祭りは好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの身体状況や嗜好に合わせて行っている。食が細くなっている方に対しては、栄養補助食品の提供も行っている。また、定期的に併設の介護老人保健施設の管理栄養士に助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で行える方についても、お声掛けし習慣となるよう取り組んでいる。口腔内の状態に応じ、往診歯科を依頼している。コロナ禍の現在は、感染拡大状況に応じた対応となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用にて、個人の排泄パターンの把握に努めている。介助が必要な方に対しては、全てを介助するのではなく、苦手な部分のみを支援している。	排泄パターンやサインで声がけし、タイミングが合わない時は時間をずらしている。オムツの方3名は定時で交換している。リハパンの方は履き心地を話し合い、フィットするパンツにすることで自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に乳製品を提供したり、午前中に適度な体操を取り入れるなど工夫している。便秘の改善が必要な方は注意して観察し、内服薬での調整も併用している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴方法や時間については、身体状態に影響のないよう配慮し、おひとりおひとりの習慣や希望に添えるようにしている。	入浴は週に2～3度、午前や午後、夜間などの時間帯や、同性介助の希望に応じている。重度の方はシャワー浴である。気分転換と保湿のため、ゆず湯やラベンダーの入浴剤を使用している。洗う順番に拘る方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間は、それぞれの希望や身体状態に合わせて配慮している。就寝環境においても、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の内服薬の作用と副作用が記載されている説明書を閲覧できるようにしており、誤薬防止マニュアルを作成し周知している。内服変更時には、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりおひとりの想いを尊重し、畑仕事やガーデニング、家事仕事などその人の得意とする役割を持った生活が送れるよう支援している。楽しみごとの支援については職員も共に楽しむことを大切にしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれご本人の想いを尊重し、希望に添った外出が行えるよう支援している。今期も新型コロナウイルス感染対策を行いながら、近所のスーパーや公園に外出し、近所の方と交流する機会を持てるよう支援している。	少人数で花見に大和駐屯地へ行ったり、初詣に吉岡八幡神社に行った。老健の花火を見たり、バーベキューをしたり、敷地内の散歩をしている。外出機会が少なくなり、ホーム内での流しソーメンや焼き芋祭りなどを企画し、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が原則であるが、特にお金を持つことへの制限は行っていない。希望があれば職員が金庫にてお預かりし、必要時に職員と一緒に買い物をして出納帳へ記載し管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、お年賀のみ継続されている方がおり、年賀状の準備を行い継続してやり取りが行えるよう支援している。電話については自由に使用できる環境となっている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設えについては、季節感に配慮した装飾を、ご入居者のみなさんと一緒に作成したものを取り入れている。室温・湿度・換気については適宜確認しながら行っている。	ホールにはCO2モニターとサーキュレーターを置き、食前には手摺りなど入居者の手に触れる所をアルコール消毒している。婦人会や民生委員から贈られた吊るし雛を出し楽しんでいる。小上がりで横になり休む方や廊下の椅子に座り、外を眺める方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにご自分の居場所を作っており、その空間を大切にしている。また、関係性を築くことが難しい方については、職員が間に入ることで孤独を感じることはないよう配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には、ご家族に馴染みのある物があることの重要性を説明し持ち込みに協力をいただいている。また、その方の趣味に合ったお部屋となるよう装飾物にも配慮し居心地の良い環境になるよう努めている。	家族と相談し、家で育てていた鉢植えや使い慣れた筆筒等を持ち込んでいる。自分で描いた油絵や、魚拓を飾る方もいる。ラジオを聞いたりテレビを見たりして過ごしている。コロナで掃除する方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の力を活用できるよう、必要に応じた個別支援に努めている。転倒リスクの高い方のお部屋には、つかまり立ちしやすいよう手すりを設置したり、センサーを活用し迅速に対応できるよう努めている。		